

教科名	国語	科目名	現代文B	学年	3学年
教材	教科書	精選 現代文B 新訂版		単位数	3
	副教材	①常用漢字の1・2トライ(浜島書店) ②新版六訂 カラー版 新国語便覧(第一学習社) ③精選 現代文B 新訂版 学習課題ノート(大修館書店)		履修区分	共通
学習の目標	1 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める				
	2 ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
	3 国語に主体的に取り組む態度を養います。				
学習の進め方	1 適宜漢字のテストを実施します。				
	2 現代文(随想・小説・評論・詩歌)を読んで、それぞれの作品に対する理解を深めます。				
	3 表現技法を理解し、駆使しながら豊かに表現できる能力を養います。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション ○倫理と心理/ 「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	・表現技法を理解し、筆者の美についての発想をとらえる。	
	5	○文化と美/実体の美と状況の美	・それぞれの特徴をたどりながら、日本人の美意識について考える。	
	6	○ここに触れる/檸檬	・登場人物像、心情の推移を的確に把握する。 ・描写、内的感覚をとらえ表現を読み味わう。	[中間考查] ノート提出
	7	○思いを伝える/昔の光	・随想の魅力を味わいながら、読み取ったことを参考に自分の考えを深める。	
	8	○社会を担う/ 「である」ことと「する」こと	・文章の構成や、段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。	
	9			[期末考查] ノート提出
前期目標				
後	10	○言語と世界/ 人を指す言葉— 自称詞・対称詞・他称詞	・日本語に関する論証の展開、結論を正しくとらえ、自称詞・対称詞・他称詞以外の人を指す言葉に目を向け日本語への興味を深める。	[中間考查] ノート提出
	11	○名作を読む(二)/ころ	・登場人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、もの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。	
	12		・小説の鑑賞力を培い、おもしろさを味わう。	
	1	○名作を読む(三)/舞姫	・日本の近代と個人の生き方との関係について考える。	
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	・定期考查・小テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。		
	・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。	30%
	【思・判・表】	自分の考えを発展させながら、目的に応じた文章の読み取りが出来るか。	50%
	【主体的態度】	積極的に言語活動に取り組み、言語文化に対する関心を持っているか。	20%

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	学年	3学年
教材	教科書	改訂版 世界の歴史A (山川出版)		単位数	2
	副教材	詳説 世界史図録 第4版		履修区分	共通
学習の目標	1 世界の歴史の基本的事項を、当時の時代背景や日本の歴史と関連づけて理解します。				
	2 知識だけではなく、歴史に対する多面的・多角的な視点を養います。				
	3 資料を読解・解釈し、それを思考・判断・表現する力を高めます。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に17・18世紀以前の、後期はそれ以降の歴史を学びます。				
	2 レポートやグループ活動を通し、思考力・判断力・表現力を高めます。				
	3 ワーク提出・小テスト・定期考査を通し、学習内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	○オリエンテーション ○世界の諸文明	・東アジアの文明	※考査毎にワーク・ファイルを提出します。
	5		・南アジアの文明	・レポート
	6		・西アジアの文明 ・東南アジアの文明	・中間考査 ・ファイル提出
	7		・ヨーロッパの文明	・レポート
	8	○世界の一体化のはじまり	・明・清王朝の東アジア ・大航海時代、ルネサンス、宗教改革 ・絶対王政と啓蒙専制君主	
	9	○近代の世界	・ヨーロッパの主権国家と太平洋世界 ・革命の時代へ	・期末考査 ・ファイル提出
前期目標				
後	10	○現代の始まりと帝国主義	・帝国主義の国際対立 ・植民地・従属国での民衆の抵抗アジア・アフリカの従属下	
	11		・東アジアと日本の帝国主義下 ・日露戦争と韓国併合 ・辛亥革命	・中間考査 ・ファイル提出
	12	○二つの世界大戦	・第一次世界大戦 ・ロシア革命とワシントン体制 ・世界恐慌と第二次世界大戦	・レポート
	1	○平和と冷戦	・冷戦の開始 ・冷戦の激化と核戦争の危機 ・現代世界と日本	・学年末考査
	2 3	家庭学習期間		
後期目標				

評価方法	・定期考査・小テストの成績、ワークやファイルの提出状況、レポートの内容、グループワークへの取り組み方等で総合的に評価します。		
	・地理歴史科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の観点	知識・技能	歴史的な事象について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。(考査、小テスト、レポートや提出物の内容等)	40%
	思考・判断・表現	歴史的な事象に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、構想、表現、議論ができるか。(考査、レポート、提出物の内容等)	30%
	主体的に学習に取り組む態度	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとしている。(レポート、提出物の内容等)	30%

教科名	数学	科目名	数学II	学年	3学年
教材	教科書	改訂版 新 高校の数学II		単位数	3
	副教材	改訂版 基本と演習テーマ 数学II (数研出版)		履修区分	共通
学習の目標	1 計算をするための基本的な考え方や、新たな概念への理解を深める。				
	2 式や関数を事象の考察に活用できるようにする。				
	3 微分・積分に関する性質を理解し、事象の考察に活用できるようにする。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、式の計算、性質、複素数平面について学ぶ				
	2 後期は教科書の内容を中心に、関数、微分、積分について学ぶ				
	3 毎時課題を課し、学習習慣を確立しつつ理解を深める。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション 1章：複素数と方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学IIの学習について</li> <li>展開・因数分解・分数式</li> <li>複素数と2次方程式</li> </ul>	*年間を通して小テストを行っていく
	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>整式の割り算</li> <li>因数定理と高次方程式</li> <li>直線の方程式</li> </ul>	
	6	2章：図形と方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線との関係</li> <li>円、円と直線</li> </ul>	・中間審査
	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>指数関数</li> <li>指数関数対数関数</li> </ul>	
	8	第5章 微分・積分	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の合成</li> <li>微分係数と接線</li> <li>導関数の性質</li> </ul>	
	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>微分と接線</li> </ul>	・期末審査
前期目標				
後	10	第5章 微分・積分	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の増減とグラフ</li> <li>関数の極大極小</li> <li>不定積分と定積分</li> </ul>	
	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>積分の性質</li> <li>定積分と面積</li> </ul>	・中間
	12	第3章 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角関数の拡張</li> <li>度数と弧度</li> </ul>	
	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>関数のグラフ</li> <li>加法定理</li> </ul>	・期末審査
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	・定期審査、単元テスト、ノート提出、日常の授業への参加態度等で評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	数学を通して学びを得るために学習し、振り返りを通して更なる学習に取り組もうとしているか。	40%
	【思考力・判断力・表現力】	事象を数学的に考察しようとしていたり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりしているか。	30%
	【主体的に学習に取り組む態度】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能・知識を身につけているか。	30%

教科名	理科	科目名	化学基礎	学年	3
教材	教科書	改訂版 新編 化学基礎		単位数	2
	副教材	四訂版 リードLight ノート 化学基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 化学が人間生活に果たしている役割を理解する。				
	2 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。				
	3 化学の基本的な概念や法則を理解する。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、原子の構造や化学の基本概念や法則を習得します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	第1編 物質の構成と 化学結合 ○物質の構成	・混合物と純物質 ・物質とその成分	
	5	○物質の構成粒子	・物質の三態と熱運動	・小テスト
	6	○粒子の結合	・原子とその構造 ・イオン ・元素の周期表 ・イオン結合とイオンからなる物質	・中間考查 ・ノート、ファイル提出
	7		・分子と共有結合 ・共有結合結晶 ・金属結合と金属	
	8	第2編 物質の変化 ○物質と化学反応式	・原子量、分子量、式量 ・物質質量	
	9		・溶液の濃度	・期末考查 ・ノート、ファイル提出

前期目標	
------	--

後	10	○酸と塩基の反応	・化学反応式と物質質量 ・酸、塩基 ・水の電離と水溶液のpH	・小テスト
	11	○酸化還元反応	・中和反応 ・塩 ・酸化と還元	・中間考查 ・ノート、ファイル提出
	12		・酸化剤と還元剤	
	1		・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の利用	・単元テスト
	2			
	3			

後期目標	
------	--

評価方法	・定期考查、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 ・理科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	定期考查、ノート、ファイル、レポートの状況、授業時の様子 など	30%
	【思・判・表】	定期考查、実験レポート、ファイルの状況	30%
	【主体的態度】	授業時の様子、提出物等の提出状況	40%

教科名	理科	科目名	地学基礎	学年	3
教材	教科書	地学基礎		単位数	2
	副教材	改訂版 リードLightノート 地学基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。				
	2 観察・実験を通して、地学的に探究する能力と態度を身につける。				
	3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、地学的な見方や考え方を養う。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、地学についての基本的な原理や法則を理解します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等		
前	4	第1編 惑星としての地球	・太陽系の中の地球	・小テスト ・中間考查 ・ノート、ファイル提出 ・期末考查 ・ノート、ファイル提出		
	5	第6編 宇宙の構成	・地球の形と大きさ ・地球の構造			
	6		・太陽と恒星 ・宇宙のすがた			
	7	第4編 移り変わる地球	・地層の形成			
	8		・古生物の変遷と地球環境			
	9	第2編 活動する地球	・プレートの運動とそれに伴う現象			
	前期目標					
	後	10			・火山 ・地震と地殻変動	
		11	第3編 大気と海洋		・地球の熱収支 ・大気と海水の運動	
12		第5編 地球の環境	・環境と人間			
1			・日本の自然環境			
2						
3						
後期目標						

評価方法	・定期考查、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 ・理科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	定期考查、ノート、ファイル、レポートの状況、授業時の様子 など	30%
	【思・判・表】	定期考查、実験レポート、ファイルの状況	30%
	【主体的態度】	授業時の様子、提出物等の提出状況	40%

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	3学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	3
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして運動の楽しさや喜びを味わい、技能向上を目指す。				
	2 課題を発見し、解決に向けて考えたり判断したことを他者に伝える力を養う。				
	3 公正に取り組み、互いに協力しながら健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。				
学習の進め方	1 基礎・基本による技能定着、技能テストを通して表現したり、課題解決能力を身につけま				
	2 一斉授業や班活動による集団学習を通して参画、公正、協力、責任の態度を養います。				
	3 学習した内容をワークシート等で振り返り、理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	○オリエンテーション (1) ○新体力テスト (3) ○体づくり運動 (3)	・自己の体力に気付き、向上させていく。 ・体力トレーニングについて	・新体力テストの実施	
	5	○体づくり運動 (3) ○マット運動・跳び箱 (8) ○体育理論 → 安全の確保について	・手軽な運動、実生活に生かす運動 ・マット運動・跳び箱の基本技能、連続技の習得 (能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる。)	・技能テストの実施	
	6	○ダンス (10) ○体育理論 →	・フォークダンス、創作ダンス、 現代的なリズムのダンス ・文化的特徴や発展について	・発表会の実施	
	7	○水泳 (10) →	・主にクロールの習得、その他の泳法習得 (さまざまな泳法で泳ぎ、リレーを目標に行う。)	・技能テストの実施	
	8	○体育理論 →	・技能の上達過程と練習		
	9	○ニュースポーツ (10) ○体育理論 →	・ボッチャ、キンボール ・オリンピックと国際理解 ・ドーピング問題		
	前期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の段階的な指導を行い、運動の合理化や課題解決能力を身につける。</li> <li>・仲間と協力して行うことや表現することを目指す。</li> <li>・健康・安全に留意させ、自己防衛力や危機管理能力を向上させる。</li> </ul>			
	後	10	○球技 (各12程度) →	・バレーボール (ネット型) (個人技能を身につけ、戦術を生かした攻防を展開する。)	・技能テストの実施
		11	○体育理論 →	・バスケットボール (ゴール型) (個人技能を身につけ、戦術を生かした攻防を展開する。)	・技能テストの実施
12		○体育理論 →	・キックベース (ベースボール型) (戦術を活かした攻防を展開する。)	・技能テストの実施	
1		○スキー (12) →	・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。	・技能テストの実施	
2		○体育理論 →	・生涯スポーツの見方・考え方		
3		○選択球技 (5) ○体育理論	・バドミントン、卓球の選択 ・ライフスタイルに応じたスポーツ		
後期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見や他者の意見を伝えたり理解し、課題解決を目指す。</li> <li>・体力の構成要素である行動力と生存力の保持増進を目指す。</li> <li>・次年度に向け、応用的な運動領域に触れ、継続的な技能の向上を目指す。</li> </ul>				

評価方法	・技能テストだけでなく、授業に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ワークシートの提出状況等を総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	・運動の合理的、計画的な実践を通して技術だけでなくルール等を身につけているか。	50%
	【思・判・表】	・課題を発見し解決の仕方や気付いたことについて事故や仲間の考えたことを他者に伝えたりしているか。	30%
	【主体的態度】	・公正に取り組み、仲間と協力したり、関わろうとしてしているか。	20%

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	3学年
教材	教科書	Vivid English Communication II NEW EDITION (第一学習社)		単位数	3
	副教材	①フレーズで英単語3000 ②Real life Listening2 ③改訂版第2版 キクタンリーディング Basic 4000		履修区分	共通
学習の目標	1 英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英語を聞いたり読んだりして理解できる。				
	2 学習した内容や自分の経験・知識について、分かりやすい英語で話すことができる。				
	3 身近な出来事や自分について、やさしい英語で読み手に伝わるように書くことができる。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。				
	2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。				
	3 ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等	
前		○各授業の最初の10分～20分で実施する帯活動 ①単語テスト ②英作文Writingテスト ③中学校文法の総復習テスト ④Listening活動 ⑤ALTのプレゼンテーションを聞く ⑥英作文の練習		前期中間      前期末考査	
	4	Writing活動 見学旅行の平和学習	○atomic bomb についてのジグソー学習		
	5	Lesson6 Nature for the Next Generation	○Eco tourismのTourguideなりきり		
	6	Lesson7 A Young Man in the Sea Who Made a Change	○速読を鍛える		
	7	Lesson8 Streetcars in the 21st Century	○都会と地方の格差についてレポート		
	8	スピーキングテスト対策	○絵を見て描写する、自分について語る		
	9				
	前期目標	速読力や精読力を高める。(Inputの語彙力、文法力) リスニング、ペアワークを通じ、表現に必要な語彙を定着させる(リスニング力、スピーキング力) 小テストを通じて、Outputの単語力を伸ばす			
	後	10	Lesson 9 The Challenge of Disarmament		○アフガニスタン戦争の歴史背景を調べる
11		Lesson 10 Inventing Innovative Things for Society	○お気に入りのデザインを英語でプレゼンする		
12		卒業課題 ①英語での映画作り	①英語で作る		
1		②Revolution Japan(グループポスター) ③英語インタビュー(ペアワーク)	②グループで1つのお題を掘り下げる ③ペアでお互いに紹介する		
後期目標	高校で学習した英語の技能をすべてを駆使し、プレゼン、インタビュー、ポスター、映画作成に生かす。				

評価方法	・授業への積極的参加や態度、定期考査・小テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 ・英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	知識を理解し、身に付けるとともに、聞いたり読んだりして理解している。	30%
	【思・判・表】	話し合い・意見の交換ができ、情報や考え等を簡潔に書くことができる。	60%
	【主体的態度】	積極的な態度で言語活動に参加し、英語力の向上に努めている。	10%

教科名	美術	科目名	素描	学年	3
教材	教科書			単位数	1
		なし		履修区分	工芸選択
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と思考力、描写力を高める。				
	2 自他の作品を鑑賞することで多様な視点から感性を磨き、表現の相違や共通性などを考察し、美術文化の発展と創造に寄与する態度、理解を育てる。				
学習の進め方	1 造形表現の基礎である素描を行うことで、観察力や表現の技術を身に付ける。				
	2 様々な素材のモチーフを描き、形態の把握の仕方や陰影の付け方などを学ぶ。				
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・基礎のおさらい</li> <li>●静物デッサン① (組モチーフの単純形体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価と学習方法について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しを持ちます。</li> </ul>
	5	↓ 講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作時の諸注意</li> <li>・様々な形体・構造の把握について(かたちの取り方)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆の削り方や持ち方、練りゴムの使い方など、デッサンの基礎を再確認します。また、表現の幅広さを学びます。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●静物デッサン② (素材、質感重視)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な表現技法について(鉛筆・練りゴムのタッチ、素材感、質感など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な道具については、はじめは学校で用意したものを使用し、必要に応じて各自で追加していきます。</li> </ul>
	7	↓ 講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象への観察について</li> <li>・構図、サイズ感など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デッサンの基本姿勢を身に付けます。</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○風景スケッチ① ※進捗状況により変更有</li> <li>○クロッキー (手などの人体) (デッサンに繋げる)</li> <li>●デッサン③ (手などの人体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明暗について</li> <li>・制作時間の使い方、進め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトラインだけで描かないよう注意し、物体と空間の間の処理について学びます。</li> </ul>
	9	↓ 講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成の仕方について</li> <li>・描線について</li> <li>・空間について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質感の描き分け方を学びます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○風景スケッチ② ※進捗状況により変更有</li> <li>・反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・量感について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥行きや立体感を捉え、遠近に留意し空間を捉える力を養います。</li> <li>・デッサンのみならず、スケッチやクロッキーなど鉛筆を用いた多様な表現方法に触れ、それぞれの違いについて学びます。</li> </ul>

評価方法	授業中の取り組みの様子、作品、提出物をもとに総合的に評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	デッサンの基礎的・基本的な表現技能を身に付け、主題に合った表現方法を創造的に表すことができたか。	35%
	【思・判・表】	対象物をよく見てとらえ、創造的な表現の構想・構成を練ることができるか。 作品や対象物を見て良さや美しさを感じ取り、作品や言葉で表現し理解することができるか。	35%
	【主体的態度】	明確な目的を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に積極的に取り組むことができるか。	30%



教科名	美術		科目名	素描	3学年
教材	教科書	なし			1
	副教材	なし			美術選択
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と思考力、描写力を高める。				
	2 デッサンや鑑賞を通して、感性や美意識を高めるとともに、自己の在り方生き方を見つめ、美術文化を尊重する態度、豊かな心情を育てる。				
学習の進め方	1 造形表現の基礎であるデッサンを繰り返し行い、技術を身に付ける。				
	2 様々な素材を組み合わせたモチーフをイメージの違いや空間をとらえながら描くことで、表現の方法を学び追及する。				
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考
前	4	・オリエンテーション ・クロッキー ・工業製品		・学習の見通しを持ちます。  ・鉛筆の削り方や持ち方、練りゴムの使い方など、デッサンの基礎を再確認します。 また、表現の幅広さを学びます。
	5	・構想デッサン		・基本的な道具については、はじめは学校で用意したものを使用し、必要に応じて各自で追加していきます。
	6	・組モチーフによる静物デッサン	・素描について ・年間計画と評価について	・デッサンの基本姿勢を身に付けます。
	7		・様々な形態の把握方法 ・様々な表現方法について ・形態の把握について ・空間表現について ・素材感について	・アウトラインだけで描かないよう注意し、物体と空間の間の処理について学びます。
	8	・石膏デッサン	・量感について ・構図について ・木炭について	・質感の描き分け方を学びます。  ・奥行きや立体感を捉え、遠近に留意し空間を捉える力を養います。
	9			・デッサンのみならず、クロッキーなど鉛筆を用いた多様な表現方法に触れ、それぞれの違いについて学びます。

評価方法	授業中の取り組みの様子と課題の提出、技術力等により総合的に評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	デッサンの基礎的・基本的な表現技能を身に付け主題に合った表現方法を創造的に表すことができたか。	40%
	【思・判・表】	対象物をよく見てとらえ、創造的な表現の構想・構成を練ることができるか。	30%
	【主体的態度】	明確な目的を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に積極的に取り組むことができるか。作品や対象物を見て良さや美しさを感じ取り、作品や言葉で表現し、美術文化を理解することができるか。	30%

教科名	芸術(美術)	科目名	美術研究	学年	3学年
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	美術選択
学習の目標	1 様々な表現や技法について学び、独自の表現力を身につける。				
	2 絵画の制作活動や鑑賞を通して、自己の視点と他者の視点を比較し、感性を高める。				
	3 レポート作成をとおして自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。				
学習の進め方	1 F100号程度の絵画を制作し、自己の表現について考え、主題を設定します。				
	2 名作や自他の作品を鑑賞し、表現の特質、お互いの良さについて学びます。				
	3 レポートを作成し、自身の制作を振り返り、自己の表現について発表します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○構想	・1年間の活動について ・レポートについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料はインターネットや出版物ばかりに頼るのではなく、できるだけ自分の力で集めること。</li> <li>・自分の表現に適した画材や技法を選択する。</li> <li>・習作でしっかり主題や技法を練ること。</li> <li>・キャンパスの組み立て、キャンパス張りは一人で行わずお互い協力して行うこと。水張りも同様。</li> </ul>
	5	○習作の制作	・資料収集、モチーフ取材 ・表現の学習	
	6	○習作発表(中間発表) ○本制作	・様々な画材の特徴について学ぶ ・主題設定、技法の検討 ・習作(実寸サイズの紙または小パネルに制作)	
	7		・習作を発表・鑑賞 ・キャンパス組み立て	
	8	○本制作	・下描き ・下地づくり ・彩色	
	9	○本制作	・ワークシートを活用し、今後の見通しを立てる。	
前期目標				
後	10	○本制作(中間発表)	・レポートについて ・再検討 ・修正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作の途中経過や今後の制作について発表、及び鑑賞を行う。</li> <li>・必要な場合は額を制作する。</li> <li>・卒業制作発表及び鑑賞。</li> <li>・1年間の制作を振り返る。</li> </ul>
	11	○本制作	・細部描込み ・微調整 ・額つけ	
	12	○仕上げ ○卒業制作発表準備	・レポート提出 ・卒業制作発表準備 ・まとめ	
	1	○卒業制作発表		
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	プリント提出状況、課題に対する創造力、技術力、授業への意欲・態度、計画性、発表内容等により総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	技法や画材の特性を理解し、設定した課題に効果的な表現ができたか。	40%
	【思・判・表】	適切な主題を設定し、実現に向けた構想をねることができたか。	30%
	【主体的態度】	自己の制作に向き合い、計画的に取り組むことができたか。自他の表現の意図や工夫を感じ取り、味わうことができたか。	30%

教科名	工芸	科目名	課題研究	学年	3
教材	教科書	なし		単位数	6
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 工芸科目を通して学んだ技術を応用し、創造的に発展させた作品制作の力を育てます。				
	2 自ら課題を設定し、解決していく力を培います。				
	3 制作の過程を通し、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き、豊かな人間性を養います。				
学習の進め方	1 1年間の制作計画を立てます。題材や課題は個々が設定し、課題解決のための方法や工夫を考えます。				
	2 これまでに学んだ知識や技術、過去の作品や資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をします。				
	3 発表や鑑賞をとおり、制作への知識や理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 課題設定と制作計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の課題の進め方</li> <li>制作に向けた課題設定</li> <li>制作に向けた試作と計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作課題をどのような手段で達成するかを考える。</li> <li>面談</li> </ul>
	5	プロトタイプと図面の制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想、設計、図面の提出</li> <li>縮尺模型、プロトタイプ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作の段取りを把握する。</li> </ul>
	6	本制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>再検討、本制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作物、図面完成</li> </ul>
	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの制作開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの制作過程をまとめる</li> </ul>
	8			
	9	制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>進め方の再検討</li> <li>中間段階の状況確認 (ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する。</li> </ul>

前期目標 早期に制作物の決定、製材・加工に入るよう、心がけよう。  
見通しを持った制作を心がけ、自ら取り組める作業量を見極められるようにしよう。

後	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>卒制委員会の立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担当者と面談し、制作の進捗状況把握と制作計画の調整を行う。</li> <li>※ガラス等の発注</li> </ul>
	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の組み立て開始</li> <li>素地調整と塗装</li> </ul>	
	12	制作のまとめ、資料の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>撮影</li> <li>図面の修正と完成</li> <li>作品、図面の完成と提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作をふりかえることで成果を確認する。</li> <li>※塗装を含めて完成</li> </ul>
	1	卒業制作発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの提出</li> <li>発表のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との学びを共有する。</li> <li>※先輩の声を聞く会</li> <li>清掃</li> </ul>
	2			
	3			

後期目標 他者と協同して作業進捗の遅れが出ぬよう、前倒しで制作を進めよう。  
制作をとおして学んだことや身につけたことなどをまとめ、発表時に伝えられるようにしよう。

評価方法 評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。

評価の観点	【知識・技能】	制作課題に対しての技法、表現を深めていったか。	30%
	【思考・判断・表現】	制作課題を自らの意図と繋がるように制作を考えていくことができたか。 他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができたか。	40%
	【主体的態度】	制作課題の設定と計画をもとに制作を進めることができたか。	30%

教科名	工芸	科目名	工芸研究	学年	3
教材	教科書	なし		単位数	4
				履修区分	工芸
学習の目標	1 選択工芸科目を含め、学んだ技術を総合的に応用、創造的な作品の制作を目標とします				
	2 制作の過程をとおして、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。				
	3 選択教科として密度のある専門性を高めた作品の制作を目指します。				
学習の進め方	1 1年間の制作計画を立てます。題材は個々が設定し、構想と基本的な設計を相談しながら進めていきます				
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしていきます。				
	3 これまでの選択科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等		
前	4	オリエンテーション テーマの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の課題の進め方</li> <li>テーマの設定と計画</li> <li>構想、設計</li> </ul>	試作		
	5	制作 中間発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺模型、プロトタイプ</li> <li>図面</li> <li>プレゼンテーションの準備</li> <li>プレゼンテーション、再検討</li> <li>実制作</li> </ul>	↓		
	6		木取り			
	7		製材		加工	
	8				↓	
	9	制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマと制作についての発表</li> <li>進め方の再検討</li> </ul>	自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する		
	前期目標					
	後	10			↓	
		11		レポート作成について		
12		1年間のまとめ	作品の完成と提出	仕上げ	↓	
1		資料の整理 卒業制作発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究のまとめの制作と提出</li> <li>キャプションの制作と提出</li> </ul>	完成		<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作をまとめることで成果を確認する</li> <li>他者との学びを共有する</li> </ul>
2						
3						
後期目標						

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。		
評価の観点	【知識・技能】	テーマに対しての技法、表現を深め、形にすることができたか。	30%
	【思考・判断・表現】	自ら設定したテーマに対しての技法、表現を深め、形にすることができたか。制作の手順や方法を考えていくことができたか。	40%
	【主体的態度】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができたか。	30%